



2022年度
決算

財務ベース売上収益の成長

+12.8%

Core売上収益の成長（CERベース）

+3.5%

財務ベース営業利益の成長

+6.4%

2021年度の日本における糖尿病治療剤
ポートフォリオ売却による減益影響を含む

Core営業利益の成長（CERベース）

+9.1%

Core営業利益率

29.5%

前年度から1.6パーセンテージポイント増加

財務ベースEPSの成長

+38.8%

Core EPSの成長 (CERベース)

+13.9%

フリー・キャッシュ・フロー

4,462億円

Nimbus社への一時金の支払いを除くと
フリー・キャッシュ・フローは8,373億円

純有利子負債 / 調整後EBITDA

2.6倍

(2.3倍 Nimbus社への一時
金の支払いを除く)

ニューロサイエンス（神経精神疾患）

6,377億円 +12%

（対連結売上比 16%）

消化器系疾患

1兆945億円 +9%

（対連結売上比 27%）

オンコロジー（がん）

4,387億円 -14%

（対連結売上比 11%）

5つの主要
ビジネス
エリア

売上全体の
89%を占める

希少疾患

7,234億円 +5%

（対連結売上比 18%）

血漿分画製剤（免疫疾患）

6,784億円 +15%

（対連結売上比 17%）

全ての増減率はCERベースの対前年度比

充実した**成長製品・新製品**の
ポートフォリオが成長を牽引

連結売上収益全体に占める割合

40%

CERベースの成長

+19%

2023年度は後発品の参入や新型コロナウイルスワクチンの需要減による一時的な向かい風

Core売上収益

3兆8,400億円

Core営業利益

1兆150億円

Core EPS

434円

マネジメントガイダンス（CERベース）

Core売上収益

1桁台前半%の減少

Core営業利益

10%台前半の減少

Core EPS

20%台前半の減少

年間配当金の増額の見通し

188円 2023年度 1株あたり

毎年の年間配当金を増額または維持する累進的な
配当方針を採用

レバレッジ低下の進捗、更には成長への投資と株主還元という新たな局面を反映し、資本配分に関する基本方針を更新しました。毎年の年間配当金を増額または維持する累進的な配当方針を採用し、2023年度には、将来の成長に対する自信を背景に増配を予定しています。

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長CEO



本プレゼンテーションには、当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。重要な注意文言を含む、当社の将来に関する見通し情報に関する詳細については、当社の2022年度決算の投資家向けプレゼンテーション (www.takeda.com/jp/investors/financial-results) をご参照ください。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

CER (Constant Exchange Rate : 恒常為替レート) ベースの増減は、当年度の財務ベースの業績もしくはCore業績について、前年度に適用した為替レートをを用いて換算することにより、前年度との比較において為替影響を控除するものです。

Core売上収益、Core営業利益、Core営業利益率、Core EPS、CERベースの増減、純有利子負債、調整後EBITDAおよびフリー・キャッシュ・フローは、国際会計基準 (IFRS) に準拠しない財務指標です。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、当社の2022年度決算の投資家向けプレゼンテーション (www.takeda.com/jp/investors/financial-results) の末尾にあるAppendixを参照の上、その定義と、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との調整表をご参照くださいますようお願い申し上げます。

「Nimbus社への一時金の支払い」とは、Nimbus Lakshmi, Inc.取得のために、2023年2月にNimbus Therapeutics, LLCに支払った40億米ドルの一時金の一部 (当該部分は合計30億米ドル) です。

